

時空の漂泊

(二〇〇四年九月十七日 創刊号)

前田勲男

創刊の決意

「大きいファイルを送られてくると往生する」「出先の海外で受信すると止まってしまう」「画面では読めないので紙に打ち出すが、分量が凄い」こんな類の苦情をしばしばもらうようになってきている。

来年、還暦。小便の切れが悪くなつたのは表面的な現象に過ぎず、脳細胞が硬化・萎縮し、「時・場所・場合」(TPO)を弁えない性癖が野蛮に露出するようになったらしい。

こうなると「老人力が付いたなあ」と嘯いているだけではすまない。机の脇に置いてあるステッパーの上で氣

が向いたら脚が弱らないようにヒコヒコやっっているだけでは駄目だと改めて思い知らされた。

怠惰に流されがちな今の自分に新たに継続的な箍をはめることを決意した。戦略経営研究所として従来の「情報メモ」、「レポート」あるいは「休憩室」(閑談)などの情報とは別に、原則、隔週報の「時空の漂泊」を発行することにした。

話題は、その時々々の気分で決めるので定めないが、様式などは次のように規定する。①冗長にならないように縦書き三段組みのA4で三枚以内とする。②文字は十二ポ、漢字にはなるべくルビを付ける(僕はルビ復活賛同者である)。③必ず図表や写真を一枚以上入れる。④PDF形式でファイルサ

イズを軽くして配信する。期間は五年間、百号まで発行すると目標とする。

普通の社会生活を過ごせるのは数年間と宣告された手術だったにもかかわらず、執刀医が呆れるぐらい、僕はしぶとく二十年間も生きています。そして先輩、同僚、後輩の訃報を手にする度に、欲張ってはいけないと自分自身を戒めている。だから、この目標が達成できれば僕には万々歳である。

しかも白状すると、この目標達成も自分一人の力では無理で、多くの人の助けを得ようと思っている。

まだ了解は得ていないが、戦略経営研究所の協力者になって頂いている和田龍児・摂南大学教授、吉田嘉太郎・

千葉大学名誉教授、金出武雄・カーネーギーメロン大学教授、河野通方みちかた・東京大学教授、許斐義信このみ・慶応大学教授、富沢木実このみ・道都大学教授などの諸先生をはじめ、高成田享とむね・朝日新聞論説委員、井口雅文（弁理士）・S & I（バンコック）社長、多田幸雄・サンロック（ワシントン）社長、さらには友人の作家・杉田望氏すぎたのぞむや山田厚史・アエラ編集委員などの諸氏にも友情出演をお願いするつもりである。

ところでタイトルの「時空」については、「大辞林」には、（一）時間と空間。「時空を超えた真理」、（二）通常の三次元空間と、その三方向に独立な一方方向として時間をとった四次元空間。時空の一点は空間的位置と時刻により指定される——とある。

そして「漂泊ひようはく」とは、（一）一定の住居や生業なしにあてもなくさまよい歩くこと。さすらい。「漂泊の旅」「日本中を漂泊して歩く」、（二）流れたたきようこと。船が投錨とういぼうせず、機関を停止してただようこと——とある。

これらの説明から「時空の漂泊」に、どのようなイメージや期待を描くかは自由である。ただ、各号で、独断偏見、唯我独尊を含め、なにがしかを感じ取って頂ければ幸いである。

この発行を決断したのはシカゴの老舗しにせのジャズ・クラブ、「シヨーケー

ス」で、満州生まれニューヨーク在住のジャズピアニスト、秋吉敏子あきよしとしこ（一九二九〜）の演奏に酔い痴れていた時だ。料金は十ドル。客は三十人もいない。音がやけにストレートに迫る。



その中でフロリダの知人は超大型ハリケーンの発生と退避勧告で二週間も自宅に帰れないでいると嘆く。それが最後の引き金に」なった。「シヨーケース」で僕は音の洪水に襲われ、押し流されて発行を決めた。